

夏号

第322号

# 一粒の麦

社会福祉法人エデンの園

2021年7月17日

ひとつぶのむぎ



花の街誕生会



おめでとうございます



青い鳥で焼肉



料理にチャレンジ!



ふれあいステークランチ

聖書のことは

一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままです。  
しかし、死ぬなら、豊かな実を結びます。(聖書 ヨハネの福音書12章24節)



## ～エデンの園のこれまでの歩みとこれから～

理事長 廣 瀬 恵

1972年、県立宮崎盲学校の教員宮本美雄をはじめとするキリスト者盲人信徒会や教会関係者は宮崎県重複障害者を守る会（その後「共に生きる会」に改名）を起こしました。障害を持つ方々の家を訪ね、本人や家族に傾聴し、「海の家」などのレクリエーションを主催するなどのボランティア活動を行いました。これらの活動の延長線上に浮かんだのが施設建設でした。「あなたの隣人をあなた自身のように愛しなさい。」という聖書の説く愛を基とし、お互いの幸せを願い、喜んで仕えあう関係を築く施設と社会をめざしました。発足から5年後の1977年「エデンの園」を冠した社会福祉法人が誕生しました。以上がエデンの園誕生の経緯、44年前の事です。

エデンの園は開設以来、利用者が安心できる環境のもとで、心身の発達や状況に応じて適切な支援を計画的・継続的に行い、利用者の成長や自立、社会参加をめざしています。また「エデンの園」の思想や実践を地域社会に発信し、障がい者が普通に生活できる環境づくりに寄与したいと考えています。

「共に生きる会」の発足から今年が50年目です。私はこの節目の年に社会福祉法人エデンの園の理事長に就任しました。発足当時からエデンの園に心血を注いでこられた川越瑞枝前理事長の後任です。畏れ多いことです。私は1978年の施設開設と同時にエデンの園に入職し、この3月まで43年間職員として働かせていただきました。振り返れば感謝な毎日でした。この間社会も福祉制度も大きく変わり、利用者の様子も変化しました。お世話になったエデンの園に何かしら役立ちたいと思うこの頃です。

エデンの園のこの10年あまりの課題は理念の継承、利用者の高齢・重度化に伴うニーズの多様化への対応、地域貢献などです。2015年からは第一次中長期目標に基づいた新たな事業を開始しました。この結果、新たに相談支援事業、麦わらぼうし（放課後等デイサー

ビス）、つむぎ（就労継続B型事業）、じょいほっぷ（地域貢献事業）などの事業がはじまりました。また、人事評価制度や働きやすい環境を目指した取組を行いました。

昨年度、第二次中長期目標を以下の通り策定しました。

《第二次中長期目標》2020～2025年度

- ①人材（財）確保と育成をすすめる
- ②安心で生きがいのある生活を保障する
- ③高齢者も安心して生活できる仕組みを作る
- ④地域貢献をすすめる
- ⑤健全財政を確立する

障害福祉サービスは、ノーマライゼーションの具現化である「共生社会」を目指しています。私たちには利用者の思いを実現する仕組みや環境を整え、個人の生活ニーズに合わせたきめ細かな支援が求められています。しかし一方で時代の閉塞感とともに価値観が多様化し、何が正しいのかどこに進むべきなのか迷い、考え込むことの多い時代でもあります。「あなたの隣人をあなた自身のように愛しなさい。」という法人設立の原点を常に確認して歩み続けるエデンの園でありたいと思います。

